



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.72

日本ルイ・アームストロング協会（ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション＝WJF）2012年7月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 Tel.047-351-4464 FAX047-355-1004 Email: saints@js9.so-net.ne.jp
ホームページ <http://members3.icom.home.ne.jp/wjf/>
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

ハリケーンと東日本大震災の日米両被災地の子供達が“夢の交流” ニューオリンズから子供達のバンドが10月にやってくる！ 「トモダチ・イニシアティブ(TOMODACHI)」でルース駐日米大使も関心示す

2005年8月29日、“ジャズの故郷”ニューオリンズを襲ったハリケーン、そして2011年3月11日、東日本大震災の地震と津波…この両被災地を結んで日米の子供達のジャズバンドを交流させようという大きな夢が、実現に向かって着実に歩き出しています。まずはニューオリンズからの子供バンドが10月5日に来日、東北の被災地で現地の子供バンドと交流。さらに来年夏に

（TOMODACHI）」の支援も、視野に入ってきました。これも、銃や麻薬に囲まれて暮らすニューオリンズの子供



外山喜雄・恵子夫妻(左)とルース駐日アメリカ大使(右から2人目)。右端はボブ・グリーンさんの友人で大使館員のバリット・セイビンさん＝6月8日、駐日アメリカ大使公邸で

達にルイ・アームストロングの生涯を思いだしてもらおうと、1994年に始めた日本ルイ・アームストロング協会の“銃に代えて楽器を！”…サッチモの孫達への楽器プレゼント運動など、全国のジャズファン、ジャズバンドの皆様から楽器と義援金が

届き、楽器を失ったミュージシャンや学校、子供達を支援することが出来た18年間の支援活動の賜物なのです。日本とニューオリンズの絆に新しい扉が開かれようとしています。5月28日に開催された「気仙沼支援チャリティ・ライブ」も、お陰様で大成功でした。今回の会報では、これらWJFの活動を集録するとともに、長い間、応援して頂いている皆様に、心からお礼申しあげます。（外山喜雄・恵子）

は、気仙沼のスウィング・ドルフィンズの渡米も固まりつつあります。さる6月8日、米大使公邸で開催されたジャズパーティーに私達夫妻も招待され、ジョン・V・ルース駐日アメリカ大使とお会いした際、日本ルイ・アームストロング協会が進めている日米子供達の交流の夢をお伝えする機会を得ました。大使も大いに関心を寄せてくれて、米政府が力を入れている「トモダチ・イニシアティブ

※今年の「サッチモ祭」は、開催日が10月14日（日）に再延期されています。場所は同じ、東京・恵比寿ガーデンプレイスのエビスビール記念館。ニューオリンズからの子供達のジャズバンドを迎える予定です。



ルース駐日アメリカ大使主催のジャズパーティー

外山夫妻が日米被災地の子供ジャズバンドの交流を熱く語る

日米ジャズ交流のパイオニア、秋吉敏子さんをゲストに開催



米のトモダチ交流はすでに進行中 レディー・ガガは600万円を寄付

ルース駐日アメリカ大使が力を入れている“トモダチ交流”は、東日本大震災被災地の若者をアメリカに招き、教育、芸術、スポーツ、起業、リーダーの育成の支援を行う若者支援のプログラム。

「トモダチ・イニシアティブ (TOMODACHI)」と呼ばれ、福島の山木屋太鼓グループがワシントン桜祭りに参加したことや、話題のレディー・ガガがキスマーク入りの被災地支援のティーカップをオークションにかけ、落札額の600万円を、日米芸術交流のための「トモダチ・アート・フェローシップ」に寄付したことなどで話題を呼んだ。

この芸術交流プログラムの発足を記念して、2012年6月8日午後6時半、アメリカ大使館に隣接するアメリカ大使公邸(東京・港区赤坂)で、ルース大使主催のジャズパーティーが開催された。1956年日本人で始めてボストンのバークリー音楽院(現バークリー音楽大学)に単身留学したピアニスト、秋吉敏子さんが、日米ジャズ交流のパイオニアとしてゲスト出演、約100名が栄えある招待を受けた。日本とニューオリンズ、そしてニューオリンズと被災地の子供達の架け橋となっている日本ルイ・アームストロング協会の外山喜雄、恵子も出席、ルース大使とお話をする機会を得た。

“恩返しの楽器”で感動のルース大使 あのツイットも忘れず夫妻を熱く迎える

2011年4月、大震災からわずか1ヵ月で、津波で楽器をなくしたスウィング・ドルフィンズの元に“恩返しの楽器”が届いたとき、この日米交流に感激してツイッターで何度もツイットして下さったルース大使。そのことを覚えていて、大変喜んで下さり、私達のニューオリンズへの支援、そして帰ってきた恩返しの話に、とても熱心に耳を傾けて下さ

った。

アメリカ大使館からは、ニューオリンズと被災地の子供達のジャズ交流は、「TOMODACHI」にぴったり…と支援を頂ける感触の言葉を頂いた。

パーティーとコンサートの会場となったのは、ギリシャ風

の庭園を持つ大使公邸の大広間。ピアノが置かれた背後の壁には円柱と上部が円形の窓…この場所は、終戦後、昭和天皇とマッカーサー元帥が並んだあの有名な写真が撮られた場所！！ ワイン、シャンペン、オードブルのカクテル・パーティーのあと、まず挨拶にたったルース大使は、「日米関係で

真に大切なのは軍事的同盟ではなく、礎となるのは人と人、文化と文化の交流です。その意味で、秋吉さんはジャズ交流のパイオニアであり、彼女に続いて何百人、何千人の音楽家が続きま

した。日米の若者をつなげるトモダチの芸術振興フェローシップのスタートに最もふさわしいゲストです。先日、来日したレディー・ガガが、日米交流のために600万円を寄付しましたが、いわばレディー・ガガも、トシコのあとを追っている…とも言えます」と挨拶。

『ロング・イエロー・ロード』など熱演 音大生も加わり『Cジャム・ブルース』

続いて1946年、九州の進駐軍クラブでジャズ演奏を始めジャズ生活65年、1956年に渡米から55年を記念するシリーズ・コンサートを昨年から続けている秋吉さんが流ちょうな英語で挨拶し、マックス・ローチら有名ジャズマンとの交流の思い出を語り、ソロコンサートが始まった。日本人としてアメリカで生活してきた想いを込め、“長い



パーティー会場となった駐日アメリカ大使公邸の大広間で挨拶する秋吉さん(写真上)。何とこの昭和天皇とマッカーサー会見の間だった(写真右=昭和20年9月27日)



黄色の道”と命名したオリジナル曲『ロング・イエロー・ロード』を幕開けに、尊敬するデューク・エリントンの『ソフィスティケイテッド・レディ』、その他ディジー・ガレスピー、バド・パウエル、新潟の冬をイメージした自作曲、また、広島を悲劇をテーマにした『ヒロシマ・ライジング・フロム・アビス (Hiroshima: Rising From The Abyss)』を演奏。最後に、国立音大生のアルトサックス、テナーサックスも特別参加し『Cジャム・ブルース』を演奏、最前列に座ったルース大使も大きな拍手を送っていた。

招待客の中には、ジャズ界からトランペットの原朋直、マイク・プライス、ピアニストの国府弘子、トシ

コ・グレイス、ゴスペルシンガーの亀淵友香、ジャズ評論家の瀬川昌久(敬称略)、そしてタレント、デιβ・スペクター夫妻の顔も見えた。

ニューオリンズとの交流を深めてきた日本ルイ・アームストロング協会の活動が、アメリカ大使や大使館関係者に、敬意を持って受け止められていることを、とても嬉しく思います。是非、日米交流の私達の夢が、大使館との新しい関係によって広がっていくことを祈っています。

(外山喜雄・恵子)



昨年のサッチモ祭に大使の名代で来てくださったアメリカ大使館の文化・交流担当、リチャード・メイ氏(中央)と外山夫妻

大震災から1年、スタートした日米被災地の子供ジャズ交流

英字紙の詳細がアメリカ社会を駆け巡り再びティピティナス財団へ

きっかけは英字紙『ジャパンタイムズ』、ケン・カワシマ記者の特集記事

記者に「今後の活動の夢は？」と問われ
双方でのジョイント・コンサートを見たい！

日本ルイ・アームストロング協会と、楽器を贈ってくれたニューオリンズのティピティナス財団共同で、ハリケーン・カトリナ被災のニューオリンズの子供達のジャズバンド、そして津波で楽器を失った気仙沼と東北の子供達のジャズ交流が、始まろうとしています。

きっかけは、今年3月8日、大震災から1年目にあたって、英字新聞『ジャパンタイムズ』が日本ルイ・アームストロング協会の長年の活動、そしてニューオリンズから気仙沼の子供達に届いた楽器の特集記事を掲載してくれたこと。記事を担当してくれたケン・カワシマ記者は、日本ルイ・アームストロング協会の活動を朝日イブニングニュース(1999年)や、ジャパンタイムス

(2004年)で、以前にも、この活動を取りあげてくれた記者さんで、昨年の大震災の直後、ニューオリンズからドルフィンズに贈られた楽器とその

背景を大きな記事で取り扱ってくれました。

英語の記事だったため、ニューオリンズの方々、そしてアメリカ大使館の方々にもこの日米のジャズ交流を、さらによく理解して頂く大きなきっかけとなりました。特にカワシマ記者から、今後の活動の夢は？と問われて、「ハリケーン・カトリナを体験した後のニューオリンズの若いミュージシャンたちと気仙沼の子供たちが、仙台とニューオリンズの双方で開催されるジョイント・コンサートで、彼らが一緒に演奏するのをしっかりと見たいんです」と答え、ハリケーン・カトリナを体験した子供達と、津波を体験し



サッチモ・サマーフェストのステージに並ぶ「スウィング・ドルフィンズ」(写真上)とサッチモ祭で行進するオー・ペリー・ウォーカー高校のブラスバンド(写真下)＝もちろん、こうなったらいいなあ…という合成写真ですよ

た子供達、そんな日米両被災地の子供達のジャズバンド

交流の夢をお話しました。

来日はティピティナス・ジャズ教室生徒8人 ウォーカー高校のセカンドライン・バンド8人

3月8日にジャパントナイズで発信されたこの夢に、まず反応してくれたのがニューオリンズの有名ライブハウス、ティピティナスの財団のスポンサーで代表のローランド・フォン・カーナトフスキーさん。有名なサクソ奏者、ドナルド・ハリソンさんの指導で開いているティピティナスのジャズ教室の生徒達8名、そして私達日本ルイ・アームストロング協会が2003年から支援してきた伝説のバンド指導者、ウィルバート・ローリンズ先生(写真上)が教えるオー・ペリー・ウォーカー高校のブラスバンドから選抜したニューオリンズスタイルのセカンドライン・バンド8名を、両先生とともに来日させることが決定しました。私達日本ルイ・アームストロング協会と楽器を贈ってくれたニューオリンズのティピティナス財団の共同プロジェクトとして実現に向かって動き始めているのです！！



仙台の佐々木孝夫さんがアレンジして 日程も固まり「サッチモ祭」にもデビュー

ティピティナス財団が費用を負担し、日本サイドでも大使館、財団、企業等の支援を求めています。10月5日に来日、6日＝横濱ジャズプロムナード出演、7日＝石巻－多賀城で多賀城ブライトキッズ、新しくスタートする石巻ジュニアジャズ・オーケストラと交流演奏会、8日＝気仙沼でスウィング・ドルフィンズと、10日＝東北の名門校、東北学院(中学、高校、大学があり、ブライトキッズを“卒業”した千葉隆壺君＝中2＝も通っている)で同校ブラスバンドと校内交流会、東京へ帰り、10月12日東京ディズニーランド出演、そして10月14日＝第32回サッチモ祭出演も予定されています。

東北地域のアレンジは、仙台のジャズカフェ「ジャズ・ミー・ブルースnola」の佐々木孝夫さん(写真下)と宮城音楽支援ネットワーク(代表榊原光裕さん)が主体となって手配を始めてくださっています。

佐々木さんは、ニューオリンズがハリケーン・カトリナで被災した時から、ジャズマン人形を販売してニューオリンズへの寄付を続けてくださり、東日本大震災では、ニューオリンズからの支援で購入した楽器とスウィング・ドルフィンズを結んでくれた立役者です。



来日する子供達の一部が通うオー・ペリー・ウォーカー高校は、あのジョージ・ルイスの家のすぐ裏の学校…1963年ジョージ・ルイスの労音公演の追っかけからニューオリンズに移住する決心に至ったことを考えると、不思議な縁を感じます。ローリンズ先生の教えてきた子供達は、貧しい環境に育った子供達も多く、私達が学校を訪問する度に先生が子供達に向かって、「一生懸命努力すれば君たちも日本に行けるかも知れない…」と夢を語っていた。その夢を実現させて上げられる機会が来たことを嬉しく思います！

スウィング・ドルフィンズも2013年夏 ニューオリンズでお礼の演奏プレゼント

また、もう一つの夢、ニューオリンズから楽器をプレゼントされた、スウィング・ドルフィンズが2013年夏、ニューオリンズを訪問してお礼の演奏をプレゼント…この夢も実現に向けて動き出しました！ ルース駐日アメリカ大使はもとより、国際交流基金やティピティナス財団も、大きな関心を寄せてくださり、トモダチ交流の一環として実現する可能性も大きいものがあります。(外山喜雄・恵子)

ニューオリンズからの来日予定を知って、ブライトキッズの“卒業生”、千葉隆壺君(中2)からティピティナス財団事務局長、キム・カットナーさんに送られてきたスイートなメールの礼状。キムさんが大喜びして外山夫妻に知らせてきた。中学1年生の千葉君が、一生懸命感謝の気持ちを伝えたいと英語と格闘、書いたお手紙、、、勝手にご紹介。

…まずは、、キムさんのメール

Dear Yoshio・I wanted to share with you this very sweet email from one of your young musicians. It brightened my day, Kim

…そして千葉君の力作

To dear Kim

Hello, how are you?

When it was decided that everybody of New Orleans visited Japan in October,

Toyama married couple gave an email to me.

And I hear that everybody comes to one's "TOHOKUGAKUIN Junior High School & high school" going to school and am very glad.

Will Kim come?

I meet very much, and oneself wants to have it.

And oneself practices music to send to everybody of New Orleans now.

I play it with the feeling of conventional many thanks.

The thanks go to direct New Orleans sometime and wanted to do it, but send

only a sound earlier.

Please look forward to.

I graduated from Bright kids

Ryuichi Chiba



塩釜市でフライトキッズ“卒業”コンサート2012開催！ 卒業生、二宮彩乃さんからすてきなレポートをいただきました

平成24年3月
17日(土)、塩釜
市遊ホールにお
いて、ブライトキ
ッズのコンサートを行いました(写真中央)。
私たち6年生にとっては、卒業コンサート
となる最後のコンサートでした。

去年は、卒業コンサートの2日前に東
日本大震災が起こり、残念ながら中止に
なりました。

あれから1年が経
ち、いろんな事が有
りました。

震災後、練習場所
の学校の被害も大
きく、立ち入ること
できず、楽器や、楽
譜の状態もわから
ないまま、何も出来
ず毎日を過ごして
いました。

練習もできず、このままでブライトキッズは終わっ
てしまうのだろうか、悲しい気持ちでいました。そんな
時、うれしい、ビックニュースが飛び込んできました。

ニューオリンズの方々支援をして下さり、東京の、
日本レイ・アームストロング協会を通じ、楽器を支援し
て下さるとのお話です。協会の外山さんご夫妻が多
賀城へ楽器を届けて下さるというのです。その話を聞
き、みんなで久しぶりに集まり、もう一度音楽がやれる喜びが、
メンバーも、保護者の方達も大爆発しました！！そして、も一
度みんなで頑張ろう！！と前へ進む事にしました。

外山さんご夫妻が楽器を届けて下さった日は、卒業コンサ
ートの出来なかった中学1年生になった、OB、OG も駆けつ
けて、大盛り上がりでした。ピッカピカの楽器に大歓声が上
がりました。そして、外山さんと一緒に、OB、OG も交え、
JAZZ を思いっきりスイングしました。(その時、外山さんの奥
様がケガをされ、と一緒に演奏が出来なかったのが、今でも



「やったー！」と元気いっぱいのブライトキッズ＝
後列目の左から三人目が二宮彩乃さん

心残りです。)

多くの方の心のこもった楽器と
共に再出発したブライトキッズも、
少しずつメンバーが増え、この1
年、沢山のステージに立つこと
が出来ました。

この1年の出来事、まだ会った
ことの無いニューオリンズの皆さ
んの事を思い、最後の卒業コン
サートが出来たことは、音楽が大



好きな皆さん、
JAZZ の大好き
な皆さん、多く
の方々のお蔭
です。

この感動、喜
びを忘れずに、
無事に卒業コ
ンサートを終
える事が出来
ました。

ほんとうにありがとうございました。

私は、ブライトキッズを卒業しましたが、いつま
でも感謝の心を忘れず、何事にも頑張りたいと思
います。そして、いつかこの恩返しをする日が来
ることを願っています。

2012年ブライトキッズ卒業生 二宮彩乃



そして、ブライトキッズを指導されている辻雅子先生からも次のよ
うなメールをいただいています。

この度は大変立派なお花を頂き、ありがとうございました。子供達
も保護者の方々もとても喜んでいました。おかげさまで、無事にコン
サートを終了することができました。体調が悪かったり、緊張したり、
興奮しすぎて怒られたりと、小学生ならではのハプニングもありまし
たが、終わった後に子供達が笑顔で「楽しかった！」と口を揃えて
いっていたので指導者チームも保護者のみなさんもホッとしました。

後ほど、今回の演奏の写真データと演奏会のDVDをお送りしま
すので、どうぞよろしくお願いいたします。
何かと忙しい季節の変わり目かと思いますが、無理せずお体大切
に。外山様ご夫妻の今後ますますのご活躍をお祈りいたしております。
辻 雅子

—「ジャパントイムズ」紙ケン・カワシマ記者 特別寄稿 の訳文

『ジャパントाइムズ』紙の1ページ全面を費やして掲載された外山
夫妻と東北支援に関わる活動記事

そんな思いが「銃に代えて楽器を」というスローガンとともに、外山夫妻をWJF（日本ルイ・アームストロング協会）発足へと導かせた。WJFはこれまでのところ、日本各地の熱心なジャズファンから800近い楽器を集めてきた。これらのほとんどは新品同様で、ほかのものは、東京・新宿区の楽器商、(株)グローバルで修復され、修理されニューオリンズへ送られた。(この(株)グローバルは、今回ドルフィンズのために送られてきた寄付金を破格な値段で楽器に代えてくれた)。そして日本通運がこれらの新しい楽器を無料でニューオリンズの子供たちのところへ運んでくれていた。

この夫妻の活動が実を結んだのは、外山夫妻が沢山の善意の人々を結びつけ、数多くの寛大な人々と日本各地の組織をも結びつけて、一步一步細心の注意を払って築いてきたバックグラウンドがあったこと。それは2世代にも渡ってニューオリンズの恵まれない子供たちに音楽家への道を歩ませ、あるいは音楽の道を歩まないまでも、音楽を通じてより創造的な、少なくとも破滅的ではない道を歩む機会を与える…そんな活動を可能としてきた。

「いま、本当に勇気づけられることは、私たちが日本ルイ・アームストロング協会をスタートさせて、最初にニューオリンズで楽器を手渡した当時、まだ小学生だった子供たちの何人かが、もうりっぱな成人になっていて、今度は彼ら自身が地元でローカルな“銃に代えて楽器を”のプロジェクトをスタートさせていたということです」と恵子さんは誇らしげに言う。

これら外山夫妻の努力は、地元でも気づかれなかった。ニューオリンズの「タイムズ・ピカユーン」紙のコラムニスト、シーラ・ストロップさんは、2003年からこの夫妻のチャリティー活動をずっとフォローし続けている。「カトリナの後、彼らは楽器をなくしたプロのミュージシャンたちの大きな助けになりました」と、ストロップさんは、Eメールを通じてジャパン・タイムズ紙に語った。「外山夫妻は私たちにとって、とても大きな存在ですし、ニューオリンズの人たちにとっても偉大な恩恵のある方々なんです」。

2008年にそんな地元での感情を反映するように、現ニューオリンズ市議会議員のジャクリーヌ・クラークソンさんは、外山夫妻がこの街の若者たちに絶え間なく続けてきてくれた活動に敬意を表して、二人に「市の鍵」を授与した。そして、ここ何年もの間、外山喜雄とデキシシー・セインツは、この街で開催される「サッチモ・サマーフェスト」の例年のハイライトの1つになっていた。バンドリーダーの喜雄さんは——『ハロー・ドリー！』や『その素晴らしき世界』のような曲で、その良き師、サッチモの厳かな声（そして、大笑い）をまねて——いまや、“日本のサッチモ”として知られている。

このように積み重ねられたすべての善意に対して東日本大震災の後、ニューオリンズの音楽界では、「今度はニューオリンズが日本を助ける番だ」という声がすぐに巻き起こった。

最初に支援を呼びかけのは、ウィルバート・ローリンズ先生だった。彼は、外山夫妻が、トランペットやサクソホン、チューバ、トロンボーンなど39もの楽器を日本から寄贈した2003年当時、カーバー高校のバンドリーダーだった。そんな関係もあってローリンズ先生は昨年4月、ニューオリンズで真っ先に日本を支援する慈善コンサートを組織した。

「外山夫妻は、たとえ1つか、2つしか楽器が残ってなくても、彼らが提供できるものは、いつもすべてを持ってきてくれた」と、彼はジャパン・タイムズからの電話で話した。「それで、大地震が日本を襲った時、今度は私たちが夫妻にお返しをする番だと思ったんです」。

そして、ティピティナス基金が外山夫妻に寄付の申し出を

してきて、ドルフィンズが4月24日、コンサートに出演することが分かった。それを聞いて、彼らはこの若いミュージシャンたちに必要なお金と足りない楽器をすぐに送った。後にティピティナス財団は、新しい楽器を買うための6000ドル超の追加寄金を多賀城「ブライتكッズ」という宮城県内の他の若いジャズバンドにも送った。

スウィング・ドルフィンズのバンドリーダー、須藤丈市さん(53)は、ニューオリンズの人々から彼のバンドに受けた恩恵に応えるものがなく、お返しがしたくてもできないで申し訳なく思っていると話している。気仙沼の目抜き通りでジャズ・バーを開きたいと夢見ていて、昨年の津波被害でこのジャズ・バーの計画が行き詰まっている須藤さんは、いまは仙台市に住んでいて、仕事を探している。

「悲しいことに、1年経ってもまだ、我々のほとんどは生活再建を続けているんです」と彼は言う。「ですから私がいつもリハーサルの時に子供たちに言っていることは、我々の感謝の気持ちを示す最もいい方法は、できる限り一生懸命に練習することだ——で、私は、子供たちに分かって貰えたと思っています。子供たちの目を見れば分かるんです」。

昨年4月の復帰コンサートでスウィング・ドルフィンズは、声高にはっきりとそのメッセージを伝えた。新しい楽器を受け取って、たったの1週間でこの若いバンドは、気仙沼の避難所になっている総合体育館の前で震災で生き延びた500人を超える聴衆が集まった多くの報道関係者に向かって演奏した。そして、このバンドが(500キロもマイカーで北へ走ってきた)外山夫妻と共に『聖者の行進』の楽しい演奏に乗りだした時、彼らの感謝の気持ちと希望の証は世界中で見られ、聞くことができた。NHKと米テレビネットワークのNBCが、このイベントをドキュメンタリーとして伝えたのだ。バンドはYouTubeにリンクして海外の友人たちにその感謝の気持ちを伝えている。

いま、スウィング・ドルフィンズは完全に復帰をはたしている。昨年は仙台から横浜の間の各地のジャズフェスティバルで演奏し、いまでは常に引っ張りだこだ。彼らの家庭での生活再建は、もがきながら続けられているけれど、彼らの音楽への意気込みは以前にも増して強くなっている。

外山夫妻に関してはどうかというと、この東日本大震災に彼らも巻き込まれてしまった。千葉県浦安市の彼らの家とその一帯は——埋め立て地に建てられていて地震が引き起こした液状化現象で——甚大な被害を受け、このインタビューの時点でも、いまだ辛い再建築に直面されている。今後の計画は？と尋ねると、無理もないことだが、恵子さんは「色々な活動で正直、ちょっと疲れました」と恵子さんは返答をする。

とはいっても、喜雄さんは、この活動で、もう一つ夢を持っている。それは、見込みは低いかも知れないが大胆な試みだ。それは、ルイ・アームストロングが来日して京都でのコンサートの際、彼は楽屋で、彼のトランペットをちょっと吹かせて貰ってもいいかと聞いて、あの巨匠がいいよと言ってくれた時の、青春時代の願いを満たしてくれたような大胆な企てをさしているのだ。今度のそれは、外山さんが、スポンサーの助けを借りて、2つの国際的な交流コンサートをやるという願いだ。

「私は、ハリケーン・カトリナを体験した後のニューオリンズの若いミュージシャンたちと気仙沼の子供たちが、仙台とニューオリンズの双方で開催されるジョイント・コンサートで、彼らが一緒に演奏するのをしっかりと見たいんです」。彼は顔を輝かせた。「これこそ“この素晴らしい世界——ワット・ア・ワンダフルワールド”ではありませんか」。

(2012年3月8日発行の「The Japan Times」紙から)



気仙沼をJAZZで応援at銀座

最高気温27度“明るい表通り”に “サッチモの夏”がやってきた！！

東京の最高気温は27度C。もうすっかり“サッチモの夏”日よりとなった5月27日(日)、文字通り“Sunny Side of the Street”東京・銀座5丁目、外堀通りに面した銀座TSビル(旧銀座阪急)「気仙沼復興プロジェクトfrom銀座」2Fの特設ステージで、日本ルイ・アームストロング協会(WJF=ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション)主催の『銀座で気仙沼支援チャリティライブ』が開催された。

被災地支援の出店が並び、「みんなで頑張ろう、気仙沼」の幟や「日本に笑顔を」の垂れ幕、大漁旗が

はためくエントランス前では、午後2時開演の30分前から、早稲田大学ニューオルリンズジャズクラブ(以下=早稲田ニューオリ)と外山喜雄とデキシーセインツ(以下=セインツ)の面々が、まずは『バー

ボン・ストリート・パレード』を皮切りに、入れ替わり立ち替わり“呼び込み演奏”(写真上)…当然『明るい表通りで』も出て、銀ブラのみなさんの目を引く。中には立ち止まって、若い早稲田ニューオリの演奏に笑顔で耳を傾ける方々も。早稲田ニューオリ、この日はマネージャーの坂尾正道さん(c1=3年)ら18人が演奏と支援に駆けつけてくれて、銀座のこんな表通りでの演奏が「本当に楽しかった」。



セインツ、早稲田ニューオリで開幕 ♪『バーボン・ストリート・パレード』

もうすっかりお馴染みのWJF会報“ワンダフルワールド通信”編集長、山口義憲さんの司会、セインツの演奏でライブが幕を開ける。セインツは、外山喜雄(tp,vo)・恵子(p,

bj)、鈴木孝二(c1)、粉川忠範(tb)、サバオ渡辺(ds)…それに、い



つものはクラリネットでセインツに参加している広津誠は、この日はテナーサックスで合流(写真上の上段)。『バーボン・

ストリート・パレード』『明るい表通りで』…もう“定番”ですね。30分ほど演奏し、中程でこのライブのいわば“総合プロデューサー”及川順一さん(気仙沼地域開発株式会社・銀座プロジェクト事務室事務局長)が歓迎と支援感謝の挨拶。WJFも開催に当たって皆さんにずいぶんとお世話になりました。

次いで早稲田ニューオリ。出演は、リーダーの高橋まほろ(tp=3年)、出本真由(c1=4年)、鈴木満里奈(p=3年)、野辺明弘(tb=3年)、山口尚記(bj=3年)、早川輝瑛(b=4年)、阿彦侑真(ds=3年)の7人(同中段)。『ヒンダスタン』に始まり、なかなかの好演だった『ティン・ルーフ・ブルース』、そして、外山さんも加わって(同下段)の『ハ

賑やかに支援チャリティライブ



インサイエティ』など30分を超える熱演。早稲田ニューオリは昨年7月と12月岩手県宮古市でボランティア演奏をやっていて今年も夏休みの7月に東北への演奏旅行を予定している。そんな話も司会の山口さんが早川さんに聞く。そうそう、この日の出演メンバーは、ことし新年早々に千葉市内で開催された「マエストロの旅(サッチモのホワット・ア・ワンダフル・ワールド)」連続3公演にも出演した皆さんが多かったですね。

集まってきたあの顔この顔… ビール、缶酎ハイははや完売

ここでバンド入れ替えもあって10分間の休憩。会場に設けられたドリンクコーナー(写真右の上段)では「がんばります、気仙沼」のジャンパーを着た女性スタッフが、コーラ、サイダー、ビール、缶酎ハイ、ハイボールを売っていたが、暑さのせいもあって、ビール、缶酎ハイは早々に完売、終演近くには、もうほとんど売り切れ寸前だった。1Fのハンバーガーも売り切れて追加したとか。売り上げ好調！ 入場者も、中村宏さん(ジャズ評論家、防衛医大名誉教授)や磯野博子さん(ジャズ評論家・故いッノでルヲ夫人)らWJF“常連会員”、早稲田ニューオリOBの皆さん、「サッチモの旅」“同窓生”といったみなさま方でキャパ150人ほどの会場はほとんど埋め尽くされた。

そんな中に宮城県(栗原市)出身のシンガーソングライター、みなみらんぼうさんご夫妻(写真上の中段)や、宮城県出身のWJF会員で、お名前も宮城健さん(東京・練馬区在住)は、出身の仙台市立商業高校の同窓会長と副会長さんまで誘ってこられた。やはり宮城県出身(仙台市生まれで子供時代、気仙沼で過ごした)という大のトラッド・ジャズファンという鈴木勝巳さん(写真上の下段)…鈴木さんは

先の会報70号で、海岸にお寺を持っていた岩手県下閉伊郡の会員で住職、中村義孝さんが津波で建物はもとより貴重な音源、創刊号から揃えてあった『スイングジャーナル』誌などすべてを失ったことを知り、ご自身の貴重な「原盤の一枚一枚の中から名演曲のみを厳選し採録編集して、

私用の門外不出の」ニューオリンズジャズ厳選コレクションなどを計6枚のCDにまとめて、外山さんのところへ中村さんへの贈答用として送ってきてくれた方。先のWJF会報



69、70号に掲載した会員でビックス・バイダーベック研究家、柳澤安信さんの「モダンジャズ全盛期にトラッド・ジャズを聴かせた2軒のジャズ喫茶」にもいたく感激されていた。

ま、つまり、この日は“トラッド・ジャズファンの集い”だったんですね。10分の休憩の時も、セインツが表通りのエントランスに出て、お客さんの“呼び込み演奏”、(呼び込んだかどうかはともかく！)宣伝効果は抜群！ 共催の東急不動産・銀座5丁目プロジェクト推進室総支配人、佐野幸巨さんはカメラを抱えて1～2Fと“取材”に忙しい。

熱演！ニューオリンズジャズハウズ ニューオリOBも楽器もってはせ参じ

第2部は、サッチモ祭にも常連のニューオリンズジャズハウズ。ライブハウスでの演奏活動も多彩でファンも多い。何よりニューオリンズへの演奏旅行も回を重ねている。この日の出演メンバーは、加藤晋一(tp)、新谷健介(cl)、山本広介(tb)、守屋雄策(bj)、東海林幹雄(p)、伊藤譲一(b)、吉井哲嗣(ds)の7人(写真上の上段)。なんとうち5人が早稲田ニューオリOBとか。『ウェアリー・ブルース』、次いで鎮魂のための賛美歌を1曲、(次のページに続く)



(前のページから続く)

復興のための定番『世界は日の出を待っている』、セインツも加わって、セカンドラインの会場パレード(前頁の右写真中段)と盛り上がり40分超。10分休憩で今度は、早稲田ニューオリが呼び込み演奏に出向く。

第3部は、会場に楽器を持ち込んだ方々が少なくないと思っていたら、全員が集まってのジャムセッションが待っていたのです。会員で早稲田ニューオリOB、「サッチモの旅」でも、よくご一緒した鈴木芳郎さん(tp)、外山さんと同期という加藤容さ

さん(b)星野正典さん(cl)横溝良和さん(tb)早稲田ニューオリきっての美人ピアニスト(と司会の山口さん=早稲田ニューオリOBが紹介)坂上順子さん。打ち上げで締めもやってくれた栗生清貴さん(ds)…これに外山夫妻も加わり、なんと全員が早稲田ニューオリOB！(前頁の右写真下段)中には、楽器はあるがマウスピースを忘れてしまったOB 田中康さんも！！これは泣くに泣けません。でも、なるほどこの日は早稲田ニューオリ稲門会による東北支援チャリティライブという側面があったからこそ、成功したのでしょうか。『ビル・ベリー』

『オール・オブ・ミー』などで盛り上げました。おや？及川さんがドラムに加わって

いますよ。このあとさらに、セインツをバックに『フライ・ミー・トー・ザ・ムーン』を“気仙沼的な発声”で披露(写真上の右端)。

司会の山口さんが目を丸くして「あれは、カラオケなんかで歌っているのとは、大違いですねえ」。打ち上げの時に伺うと、もう10年前、社会人フルバンドでドラムとか、ボーカルもやっていたとか。ああ、このような隠れた！？ジャ

ズファンがとっても多いんです。外山夫妻は、そのような人たちを本当に大事にしている。

景品多数！の“お楽しみ抽選会”もCD、DVD、気仙沼グッズ、海産物…

さて、お楽しみ抽選会。その及川さんが苦労して集めて

下さった“気仙沼グッズ”、「がんばります、気仙沼」のスタジャン、人気菓子の「かもめの玉子」など計22点、WJFからはセインツのCD、サッチモのテレビ番組など納めたDVD、サッチモの少年時代を活写したこども向け新刊の『はばたけ、ルイ』(若林千鶴訳=13面に詳報=若林さんは、今年の「サッチモの旅」に参加しますよ！)、WJFクリスマスパーティーでもお馴染みの会員、水越有造さんご提供の“サッ

チモ金太郎飴”(あの日野皓正さんは「もったいなくて食べられない」)、さらにWJFからフカヒレスープなど気仙沼の豪華海産物3点セットなど計42点。かなりの当選確率でし

た。

終盤に入ってセインツ。外山さ

んの歌をフィーチャーした『君微笑めば』、そして、東日本大震災の被災者へ向け、世界中の“サッカーファミリー”が寄せ

てくれた『We'll Never Walk Alone』、何とも涙を誘う『浜辺の歌』、恵子さんの『世界は日の出を待っている』、デュワツデュワ…の『スウィングしなけりや意味がない』。フィナーレは、何と言っても全員集合の『聖者の行進』セカンドライン・パレード(写真上中央)。

終演予定の午後5時を大きく回ってしまいましたが、会場をバックアップしていただいた気仙沼スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。出演の外山夫妻とセインツ、ニューオリンズジャズハウズ、早稲田ニューオリ&OBのみなさん、司会の山口さん、ご苦労様…この晩は、美味しいお酒で旧交を温めたようです。

※このライブの収支のご報告は最終16面に。(小泉良夫)

主催: 日本ルイ・アームストロング協会
共催: 気仙沼商工会議所
東急不動産株式会社



早稲田ニューオリ歴代(!?)美女ピアニスト。左から外山恵子さん、鈴木満里奈さん、坂上順子さん



「スウィング・ドルフィンズ」のみなさんからも心温まるお礼の手紙
恩返しは一生懸命練習し胸を貼って大好きなジャズを演奏すること
復興もこの子供達が…活動再開の危機を救っていただき深く感謝！

2012/03/25

外山喜雄様・恵子様
 謹啓

東日本大震災発生の日からようやく1年が過ぎました。
 被災地は建物の解体や瓦礫の撤去も進み、春の空つ風
 が何にも無くなつた街を吹き抜けていきます。

先日は素敵な本を送っていただき、本当にありがとうございました。
 早速メンバーが順番で読むことになりました。

ジャズが
 大好きな
 子供達と
 はいえ、
 おそらく
 「ルイ・ア
 ームスト
 ロング」の
 伝説を知
 る子はほ
 とんど無
 く、お陰



勢揃いした「スウィング・ドルフィンズ」のみなさんと外山夫妻。左端が会長の須藤丈市さん＝2012年11月26日、クリスマスの装いに彩られた東京ディズニーランドで

様でとても良い勉強の機会になりました。また、これをきっ
 かけに「ルイ・アームストロング」と「ジャズ」を益々好きにな
 ってほしいと願っております。

さて、被災地では復興に向けての取り組みが多くの不
 安と様々な課題を抱えながら動き出そうとしているところでは
 ありますが、誰もが経験したことのない大災害にただうろ
 たえ、右往左往する姿ばかりが目につくのが実情です。
 復興を遂げるためのこの取り組みは、世代を超え、何十年
 にも及ぶ大事業となることを私たちは覚悟しなければなり
 ません。そして、故郷が以前の繁栄を取り戻す頃、時代の
 中心となって活躍するのは紛れもなくいま楽しそうにラッパ
 を吹いているこの子供達です。

いま、私たち地域の大人達に課せられた責務は、この
 子供達を誤りなく守り育てていくことだと言えます。そして
 私たちはこれからも「音楽」という素晴らしいエンタテインメ
 ントを通じて、この活動を息長く続けていきたいと考えてい
 ます。

昨年の震災直後、活動再開の危機を救って頂きました
 ことには、いまでも深い感謝の念に堪えません。外山さん始
 め国内の関係者の皆さん、そして何よりニューオーリンズ

の関係者の皆さんにはあらためまして厚く御礼申し上げます。

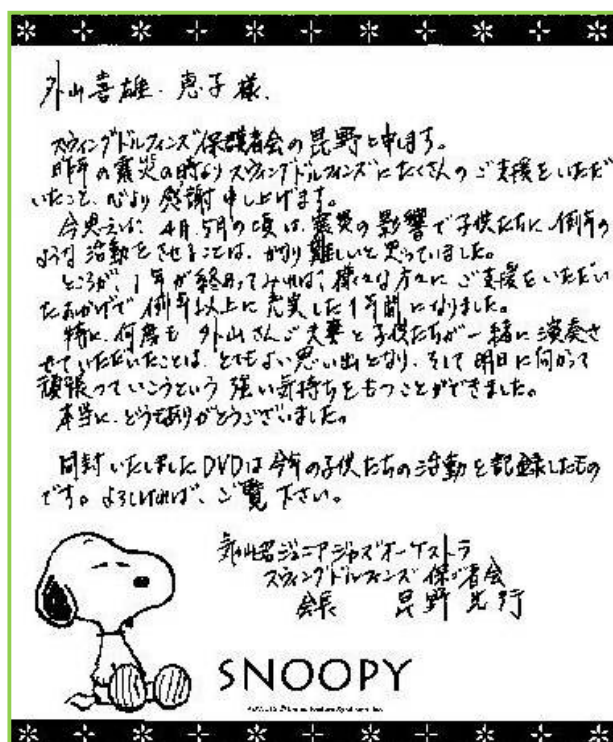
皆々様からの温かいご支援への恩返しは、逆境にあつ
 てもそれにめげることなく、もっともっと一生懸命練習し、
 多くの皆さんの前で胸を張って、そして笑顔で大好きな
 「ジャズ」を演奏することだと子供達と誓い合いました。
 どうかこれからも可愛い「イルカ」達の活躍を温かく見守つ
 て頂きたく、切にお願い申し上げます。

春と言
 え朝夕は冷
 え込む日が
 続きそうです。
 何卒ご自愛
 下さい。
 謹白



気仙沼ジュニアジャズオーケストラ
 会長 須藤丈市

スウィング・ドルフィンズ保護者会代表
 昆野光行さんからお礼状を頂きました！



宮城音楽支援ネットワーク事務局の佐々木孝夫さんとともに…
WJF も支援！石巻ジュニアジャズオーケストラが誕生
 10月来日のニューオリンズ・バンドとの合同イベントの夢も広がる

東日本大震災で被災した宮城県石巻市の子供達のジュニアジャズバンドを立ち上げようという夢が6月23日、仙台市の宮城音楽支援ネットワーク(榎原光裕代表)事務局の佐々木孝夫さん(カフェ&バー「ジャズ・ミー・ブルースnola」オーナー)らの奔走で実現した(写真右)。

日本レイ・アームストロング協会も、佐々木さんからの連絡で全面協力、アルトサックス2点、うち1点はタイミング良く、所沢市の大川敏明さんから、寄贈された。もう1本は、先に開催した「銀座で気仙沼チャリティライブ」での収益や基金の1部を

抛出してグローバルから購入した。テナーサックスは協会のストック分から。バストロンボーンはストック分をグローバルで修理調整後に送った。さらに

佐々木さんと榎原さんがネットオークションで購入したエレクトリック・ピアノ、ギターアンプ、ベースアンプの代金をWJFが負担した。

ニューオリンズのティピティナス財団に財政的余裕(来日の経費のこともあり…)が出れば、バリトンサックスをお願い出来そう。10月の来日の際、石巻での合同イベント時に、贈呈となると良いのだが…。

バンドは、名付けて「石巻ジュニアジャズオーケストラ」。誕生当日は、榎原さん(定禅寺ストリートジャズフェスティバル前代表)や佐々木さん、キューさんの愛称で知られる

＜アルトサックスをご寄贈いただいた大川敏明から＞

この子たちがすばらしいアンサンブルを聴かせてくれることを楽しみにしています。ボランティアでご指導される先生方も大変とは思いますが、がんばってくださいと思います。こちらからも応援しています。ご報告ありがとうございます。今回のサックス寄贈の経験を通じて、『つながっている』という実感をひしひしと感じています。ご対応いただき、ほんとうにありがとうございました。

“お祭り男”、高橋清博さん(オフィスQ代表)が出席。佐々木さんには、日本レイ・アームストロング協会の代表も努めていただいた。



佐々木さんからはさっそうと、ご報告をいただいた。

＜お世話様を持ちまして石巻ジュニアジャズオーケストラが誕生しました(写真左)。河北新報の新聞記事(写真下＝2012年6月24日発行)、当日の写真を

添付します。写真(左下)の楽器は、2台の古めのギターアンプを除いたものが贈呈品です。子供達を含むみなさんに会報とサッチモ・コースターを差し上げ、経緯についてもきっちりと伝えられたと思います。10月の石巻での会場等についてもリサーチしてきました。＞

佐々木さん、ご苦労さまでした。



東日本大震災被災した地域を支援する音楽活動の推進を目的として、石巻市小中高校生、ビッグバンド結成

が23日、発足した。石巻中央公民館で発足式が開かれた。顔合わせをした後、トランペットやサックスなどのパートごとに分かれ、音を出す練習に取り組んだ。

メンバーは初心者や吹奏楽部の部員で、石巻市内の学校に通う小学生から高校3年の18人。石巻地区で音楽活動に携わる有志10人ほどがボランティアで指導する。8月26日に市内で開催される音楽祭の出演を目指し、毎週土曜日練習に励む。

ビッグバンドの結成は市内の小学校教諭白根敦さん(44)らが考案。震災で楽器を失いながらも活動を続ける気仙沼市のジュニアジャズオーケストラ「スウィング・ドリームズ」に刺激を受けたという。

ドラムやピアノといった楽器は日本レイ・アームストロング協会、全楽器県浦安市などが支援を受け、結成に寄附した。

代表を務める石巻市職員 山田元郎さん(57)は「子どもたちの元気な演奏で市民を勇気づけ、地域をパワーアップさせたい」と話した。

サッチモの少年期を活写『はばたけ、ルイ！』を翻訳した若林千鶴さん

(PLAY, LOUIS, PLAY:The True Story of a Boy and His Horn)

外山夫妻とHUB新浦安店で初対面…セインツの演奏も楽しむ

ルイ・アームストロングの少年期を
活写した伝記『はばたけ、ルイ！』(写
真＝ミュリエル・ハリスワインスティーン
作、フランク・モリソン絵： 原題＝PL
AY, LOUIS, PLAY:The True
Story of a Boy and His Horn)を邦訳し
た翻訳家の若林千鶴さんが、出版に
当たって監修、協力を惜しまなかった
外山喜雄・恵子夫妻を初めて訪ねて
大阪から上京、4月13日夜は、千葉・

浦安市のHUB新浦安店で終演までデキシーセインツの
演奏を楽しんだ。この際、私もお邪魔してちょっぴりお話
を伺った。

(小泉良夫)

公立中学校で国語を教えるかたわら… 翻訳候補の中に“LOUIS”を見つける

若林さんは、大阪教育大学大学院を修了後、長い間、
大阪の公立中学校で司書教諭として国語を教え、図書館
を担当し、『学校図書館を子どもたちと楽しもう』(青弓社)
の著作にもあるように一貫して子供達に読書の楽しさを教
えてきた。このため児童書や絵本の邦訳も多数にのぼり、
エージェントからも常々、翻訳の話が持ち込まれていた。
そんなある日…。

「東日本大震災のちょっと
前のことでした。翻訳候補の
いろいろな本が送られていた
んですが、タイトルの“LOUI
S”というところに、ちょっと興
味を引かれましてね。ええ、ル
イ・アームストロングのことは知
っていましたし、聴いてもいま
したので、あら、サッチモのこ
とかしら！？と思って…」

パラパラめくり、ざっと目を通してうちにすっかりこの
本の素晴らしさ…特にルイが初めて手にした中古のコル
ネットの“目”を通して彼を見つめ、コルネットに少年期を
語らせているアイデアにも驚きつつ、その魅力に取り付か
れていった。そればかりではない。サッチモの人生に終始



若林千鶴さん(中央)と外山夫妻＝HUB新浦安
店で

つきまとった過酷な“人種差別”も、
しっかりと書き込まれていて衝撃
を受けた。

くルイの大好きなおばあちゃん
は「元奴隷」でした。いつも腹
ぺこで、裸足、満足に学校へも通
えないような生活…>と若林さん
が、訳者あとがきにも触れている。
また、2月16日発行・産経新聞
(大阪版)のインタビューの中で

「公民権運動のことを授業で教えることはありましたが、音
楽の世界のルイ・アームストロングとはつながっていきな
くて」と若林さんが言うように、人種差別を禁止する公民権
法が米国で制定されたのは、やっと1964年のなつてのこ
とだった。この年、サッチモは3度目の来日を果たしている。
『ハロー・ドーリー』が世界的な大ヒットを飛ばし、外山さん
が“追っかけファン”になって、サッチモの楽屋で彼のペッ
トを吹いてしまった年。そんな年まで、アメリカでは公然と
人種差別が続いていた。

極貧、奴隷、人種差別…厳しい現実 何としても子供達にこの事を教えたい

これはもう、何としてでも翻訳したい。子供達にも、この
事実を教えたい。そう決心
して出版社を探していた中
で、「うーん、これがマイケ
ル・ジャクソンだったら、出
してもいいんだけどなあ…」
という出版社もあったそう
だ。やっと若林さんの熱意を
くみ取ってくれた出版社が
現れた。(株)リーブル(東
京・練馬区)だった。あとは
話がトントン拍子に進んだ。
イタリ



若林さんやファンらで大賑わいのHUB店内を回るセインツ

アの「ボローニャ国際児童図書展」に出向いていた担当
者が、アメリカの著者ら関係者と接触、OKをもらった。若
林さんの本格的な翻訳がはじまる。知人のミュージシャン
が音楽用語の翻訳に力を貸してくれた。

(次ページ下段に続く)

ルイ・アームストロング・ハウス博物館の日本庭園が賞金15万ドル獲得！！
保存プロジェクトがフェイスブックの人気投票に立候補し選出される
外山さんも日本のサッチモファンに呼びかけ大攻勢！みなさんのご協力のお陰です

1920年代、“ジャズ語”とも言えるような、今のジャズにまで続くテクニックと表現、そして最も大事なスイング感をこの世にプレゼントしたサッチモ。そのサッチモの家にあるサッチモが愛した日本庭園保存プロジェクトが、フェイスブックの人気投票に立候補し、ルイ・アームストロング・ハウス博物館から連絡を受けて私が、5月21日締め切りの投票をフェイスブックとメール配信で、日本中にばらまいて皆様に呼びかけていたところ見事、15万ドル(1200万円!!!!) サッチモ風に…オーイエス!!)の賞金を獲得しました！日本のサッチモファンの皆様の応援のお陰です。ご協力頂いた日本のサッチモファンの皆様、ほんとうに有り難うございました！賞金は日本庭園の保存修復に大いに役立つでしょう！



私達は、7月末、20人を超える「サッチモの旅」ツアー参加者の皆さんとハウスを訪れます。サッチモの霊が喜んで出迎えてくれるかも…。お墓参りも予定しています。(外山喜雄)



(写真上)庭園中央の芝生に椅子を並べての演奏会も。写真ではセイントが演奏中 (写真下)庭園には池もあり鯉も泳いでいる＝撮影:小泉良夫

“ジャズの王様”ルイ・アームストロングが1943年から他界する1971年まで愛妻のルシール夫人と住んでいた家が、N.Y.C.クイーンズ区コロナにあり、現在ルイ・アームストロング・ハウス博物館として一般に公開されています。

その建物の隣にあるのがサッチモの愛した日本庭園。夏にはこんもりとした木立に囲まれ、芝生が敷き詰められた中央部分では、写真のように、子ども達や近隣の人々のための“サッチモ・コンサート”も開催されています。

(前のページから続く)

どうしても分からないところがあって…
ネットで調べ外山さんに電話やメール

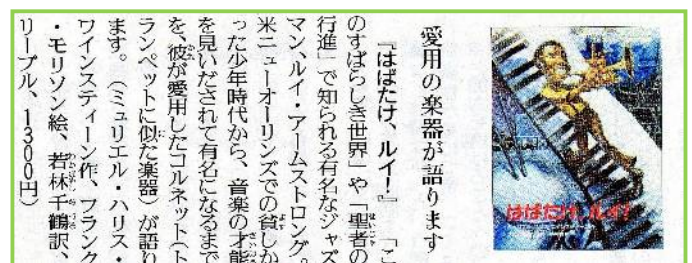
「それでも、どうしても分からないことがあって、ネットでいろいろ調べているうち、日本ルイ・アームストロング協会のホームページに行きあたったんです」と若林さん。そこには、若林さんの疑問に答えてくれるヒントがいっぱいあった。「でも、こんな大きなホームページを持っているところに、聞いてみるなんて、ちょっと…」と思ったが、意を決して電話やメールを入れると、外山さんから何とも親切、丁寧な返答がきた。「なんか外山さんがご病気で入院されていたようなんですが、病床からもご返事を頂いたんですよ」。

かくして外山さんの全面的な協力・監修も得て、この著作は発刊された。「人生で大切なのはお金でも便利さでもなく、心の支えになる大好きなものを見つけること。そのことを『少年のルイ』が教えてくれます」と、若林さんは、この産経新聞のインタビューで話している。＜この本に出会ったとき、わたしは何か運命的なものを感じていました＞(同書訳者あとがきから)とも。

会場には、事務局の細川ハテミさんや、サッチモの旅の“同窓生”、飛田利勝ご夫妻と息子さんご夫妻らも姿を見せ、若林さんとの記念撮影など、大いに盛り上がる。若林さんのセカンドラインも良かった！

若林さんと、外山夫妻らが出会った翌日(4月14日)の読売新聞夕刊に、この『はばたけ、ルイ！』が書評で取り上げられていた。外山さんがよく言うように「これも、本当にいたずら好きのサッチモの仕業に違いありません」。オー、イエー！

すっかりファンになってしまった若林さんは、今年の「サッチモの旅」に参加される予定です。みなさんも一緒にいかが？



平成24年4月14日付けの読売新聞に掲載された書評

外山さんが推薦(翻訳本の表紙カバーから)

質屋の店先にあった“ルイ少年のあこがれのホルネット”が語るルイ・アームストロングのお話！あまりにも可愛い設定と大阪の中学校の先生、若林千鶴さんの熱意にすっかり共感して、楽しんでお手伝いさせていただきました。本当に可愛い挿絵の可愛いお話です。是非皆様のコレクションに一冊どうぞ！！

世界でもっともサッチモに近かった人！ “良き隣人”セルマ・ヘラルドさんを偲んで

セルマさんは、私が世界一、敬愛したひとの一人だ。彼女の住まいはNYクイーンズ区コロナ107丁目34-52番地、サッチモが1943年から71年に他界するまで暮らした“サッチモの家”107丁目34-56番地のすぐ隣…文字通り‘サッチモにもっとも近い人’だった。

1945年ビッグバンドを解散しデキシードジャズのバンド編成に戻ったルイ…歴史的タウンホールコンサート、シンフォニーホール…1923年5月16日生まれセルマさんは、その頃20歳そこそこ…サッチモに可愛がられ、ジャックT、バーニー・ビガード、ビッグ・シド・カトレット、アール・ハインズ、アーベル・ショーの歴史的メンバーとのツアーにもスタッフでつれていってもらい、トレードマークのハンカチ150枚を“携帯用の小型洗濯機！！”で洗濯、アイロンをかける仕事をしと言う。うら若いセルマさんの身をサッチモは心配して、メンバーが“悪さ”をしないように目を光らせ、ある時など“のぞき”の被害にあわないように部屋の隙間にテープを目張りしてくれて…と笑って話していたセルマさんが懐かしい。

サッチモハウスを訪れる度に私がラップを出してサッチモのテーマ『南部の夕暮れ』や『ウエストエンド・ブルース』を吹くと、「トヤマ！！！」と言って家から飛び出てきてくれた。サッチモハウスの入口のステップで記念写真を撮りながら、“南部”を歌ったらびっくりして目を丸くした。隣人サッチモと長年生きた彼女に、私のサッチモが乗り移った瞬間だった。以来、彼女は“私のサッチモ”の最大の理解者になってくれた気がする。

毎年サッチモのお墓参りに同行してくれたセルマさんだが、去年は、息切れと動悸がひどくてお墓まで行くのは断念、墓地の入り口にある木陰で待つことになった。お墓で演奏後、彼女に演奏をプレゼントしたいと思い、木陰で待つ彼女を囲んで『マスカラット・ランブル』を演奏した。彼女はすっかり喜んでくれて素敵なステップで踊り出した。

その数日後、サッチモ・サマーフェストのセミナーで講演するため、セルマさんはサッチモハウスのスタッフに助けられ、車椅子で酷暑のニューオリンズにやってきた。金曜日、老人ホームでの私達の演奏開演直前、セルマさんが車椅子で入ってきて一番前に陣取り、最後まで楽しんでくれたのが本当に嬉しかった。オープニング・テーマの『南部の夕暮れ』のエンディングで機転を利かせて彼女にマイクを持っていった…見事サッチモ風に「♪グッド・イブニング・エブリボディー！！」と歌って締めてくれた。その映像、また、『バーボンストリート・パレード』で、車椅子から立ち上がって踊り出したシーンは、嬉しいことにユーチューブで映像を見ることができる！！(下記のURL)

<http://www.youtube.com/watch?v=tUfwZMo97BU>

<http://www.youtube.com/watch?v=urv5qmONA2s&feature=relmfu>

翌日のセミナーでは、“良き隣人サッチモ”というタイトルの彼女の講演で、とびきり楽しいサッチモとの想いでを元氣いっぱい一時間語り、私たちも楽しませてもらった。

サッチモ・サマーフェスト最終日の日曜日、恒例のジャズミサでトレメ・ブラスバンドと演奏した。演奏が終わり教会から出て炎天下のパレードに入ろうとすると、どこからともなく「トヤマ！！！」と叫び声がした。車椅子のセルマさんだった。彼女は大喜びで車椅子から飛び上がり、ラップを吹く僕の腕に飛びついて、焼け付くような太陽の中を一緒にしばらくパレードをしてくれた。一生忘れられない思い出だ(写真左＝撮影:小泉良夫)。

彼女がこうしてくれた事がある。「トランペッターは多いけど、本当にサッチモの心を理解しているのは、トヤマ、ユーだけだよ」。私の心も、彼女がそういう気持ちが手に取るようにわかって…そんなお互いの気持ちの通じ合いは不思議な感覚だった。昔亡くなった私の祖母にもタイプ

や風貌がちよっと似ていて、私の中では、なんだか自分のおばさんだったような、不思議な気がする。

去年のニューオリンズの夏…消えそうになる命の火を揺らせながら愛するサッチモの故郷を訪れ、NYで、またニューオリンズで私達日本から来たサッチモファンと忘れ得ぬ思い出を残してくれたセルマさん…。

2011年のニューオリンズの夏は、私たち、ツアーに参加して下さった皆さん、、、そして、きっとセルマさんにとっても、忘れ得ない夏となりました。どうぞ愛する隣人サッチモ夫妻とともに、天国で安らかに眠りください。

友人セルマ・ヘラルドさんの死を悼む

古川 博(京都市)

2011年12月、外山喜雄ツアーの友人であり、サッチモハウスの隣人、セルマ・ヘラルドさんが亡くなった。2004年の外山喜雄ツアーで、初オープンしたルイ・アームストロング記念館を訪問して以来、サッチモハウス前で外山さんがサッチモの名曲“南部の夕暮れ”をトランペットで吹くとセルマさんが笑顔で自宅から出てきて、毎回我々のツアー一行を出迎えてくれた。2010年、2011年は“ウエスト・エンド・ブルース”を吹いた。



2010年、2011年は“ウエスト・エンド・ブルース”を吹いた。

サッチモの生き証人・セルマさんが2011年12月始めに亡くなった悲報を12月4日付外山さんからのメールで知って、悲しく大きなショックであった。

2008年はサッチモお墓参りの帰り、昼食会に同行されたし、2011年8月はニューオリンズでサッチモ祭のセミナーに元氣でゲスト出演した。少し気になったのは足が弱くなられた印象であった。その年の暮れに急に亡くなられたとは残念でならない。2004年以来毎年のサッチモツアーでセルマさんとは、多くの記念写真を撮ってきたが、2011年8月はとてもお洒落なエスニック柄のシャツでお元氣なセルマさんと最高の写真が撮れて投稿しました。心よりご冥福をお祈り致します。(写真は、2011年8月2日、サッチモハウス前にて)

ご寄付と嬉しいお手紙
ありがとうございます！！

◆宮原 明様(会員、府中市) トランペット

外山喜雄さんの先輩で、高校時代に同じブラスバンドのトランペット・セクションで教えて頂いたそうです。高校から大学時代、宮原さんが愛用されたコーンの名器トランペットです。

◆鳴瀧 晶様(習志野市) フルート(YAMAHA 311)

25年くらい前に購入したもので、10年以上吹いていない楽器です。タンポ交換などが必要だと思います。ケース・掃除棒あり。古い楽器ですが処分するには勿体なく、どなたかに使って頂きたいと考えています。

◆大川敏明様(所沢市) アルトサックス

石巻ジュニアジャズオーケストラの発足で、現地からアルトサックスのご希望があったタイミングに、偶然ご寄付頂き、発足式(記事は12面)で贈呈されました。

◆グローバル様

石巻ジュニア・ジャズへの楽器寄贈では、グローバル様にも、またまた、お世話になりました。(アルトサックス1点購入、楽器修理等も)

◆若林千鶴様(会員 大阪市) 30,000 円

◆鈴木鐵雄様(会員 北区) 10,000 円

◆森田育弘様(会員 松戸市) 10,000 円

石巻ジュニアジャズオーケストラ支援楽器

要望楽器	機 種	メーカー	適 用
バストロンボーン			WJF所有
アルトサックス	AS567GL	ジュピター	WJF購入
アルトサックス	AS220(台湾)	セルマー	WJF大川さん 寄贈
テナーサックス	TS587GL		WJF所有
バリトンサックス	BS793GL	ジュピター	購入予定
キーボード	YAMAHA P-85	YAMAHA	WJF中古購入
ギターアンプ	PEAVEY Bandit112	ビーヴィ	WJF中古購入
ベースアンプ	HARTKE A100	ハートキー	WJF中古購入
ドラムセット	Stage Custom 一式	YAMAHA	宮城音楽支援 ネットワーク

「銀座で気仙沼支援チャリティライブ」

収支のご報告

◆収 入=38万3200円

チケット売り上げと募金箱へのご寄付

◆支 出=10万6140円

チラシ、チケット印刷代など事務経費等

◆差し引き収益(全額寄付に充当)
27万7060円

・寄贈先は、「スウィング・ドルフィンズ」に**10万円**

・石巻ジュニアジャズオーケストラの楽器購入費用

(グローバルからアルトサックス購入=6万円

佐々木さん側がネットで購入したキーボード、ギタ

ーアンプ、ベースアンプ代金=6万7770円)

12万7770円

・残額**4万9290円**は、来るべき日米被災地交流などに補充する予定。



募 集 中 !

♪ジャズを愛する皆様

どうか会員になって下さい！！

また皆様のお知り合いの方々に
ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

=WJF年会費=

一般会員(General Membership) ¥6,000

学生会員(Student Membership) ¥3,000

賛助会員(Friends of Louis Armstrong) ¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行浦安駅前支店

普通 : 5175119 “ワンダフルワールド”

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax : 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Google で

ルイ・アームストロング

嬉しいトップニュースです。ニューヨークから子供達のバンドが10月に来日！ハリケーンと地震／津波の被災地の子供達が、ジャズで交流する夢が実現します。サッチモ祭(10月14日)にも、ニューヨークからの子供達バンドの出演が予定されています。▼このプロジェクト実現のきっかけとなった『ジャパンタイムズ』の記事に関しては3P、訳文は6Pをご覧ください。WJFのグローバルなミニニケーション活動の積み重ねが成果となりました。▼東京・銀座で開催された「気仙沼支援チャリティ・ジャズ・ライブ」は、多数の参加者で会場は満席、出演3バンド&有志飛び入りバンドの演奏はいずれも熱演で、観客も大いに盛り上がりました。▼昨年末に逝去されたセルマおばあちゃん、ニューヨークのサッチモハウスの隣人で、昨年はニューヨークのツアーも一緒に会員の方々とも親交を深めていました。古川さんと外山会長の追悼文を15Pに掲載いたしました。合掌。(山)

編集長から